

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100343		
法人名	医療法人 寿仁会		
事業所名	グループホーム ファミージュ		
所在地	沖縄県那覇市寄宮2丁目1番18号 ユートピア沖縄4階		
自己評価作成日	令和4年9月12日	評価結果市町村受理日	令和4年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100343-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和4年 10月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームファミージュは、サービス付き高齢者住宅ユートピア沖縄の4階にあります。2階には、内科のクリニック絆、デイサービス、認可保育園もあり、職員や入居者同士の交流する機会もあり、様々な行事なども一緒に行うことができます。那覇市の中心地で、交通アクセスも便利になっています。近隣で在宅生活していた方の入居相談も多く、地域に貢献できるグループホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とする事業所は、施設内にサービス付き高齢者住宅、診療所、訪問介護、通所介護、保育園が併設された複合型の介護施設になっている。建物内には緑豊かな庭園があり、四季折々の植物が観葉できるロケーションとなっている。建物内は高齢者向けの落ち着いた色彩に配慮し、個室および共有部分には心地良さ、使いやすさから選定された家具類が設置されている。今年度、開所以来はじめて、利用者の状況、職員の体制など現状に合わせ、職員と共に事業所独自の理念を作り変更している。職員は理念にある利用者の想いに寄り添い、笑顔を引き出す為、気持ちにゆとりを持つことを大切にし、日々より良く暮らすための支援に取り組んでいる。また24時間、併設された診療所との医療連携が取れており、緊急時においても看護師、医師と連絡が取れ、指示を仰ぐ体制作りがされている。現在、コロナ感染予防の為、地域や法人内の保育園との交流の機会が少なくなっているが、玄関前を活用し、季節に合わせた楽しみのイベントを行い、利用者の心的ストレスや不安の解消ケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・令和4年7月より、事業所理念を変更。事業所立ち上げ当時の理念は、現在の入居者様の状況、職員の体制も変わってきているので、職員で話し合い、新しい理念を設置した。	管理者は年度末に、職員へ理念の見直しが必要かの確認を実施している。今年度、利用者の状況、職員の体制など現状に合った理念に作り変える必要性が多数あり、事業所独自の理念に変更されている。職員は利用者の想いに寄り添った笑顔を引き出すには、気持ちにゆとりを持つことが大切だとし、毎朝の朝礼で唱和し、意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・施設近隣に住む、職員の子供との交流、買い物できる花屋さんへ出向いて購入する機会を設けている。	定期的に活動時間の際、近隣の花屋へ散歩がてら買い物をされたり、近所の子供との交流や地域の一員として関係性の構築、継続に努めている。コロナ禍で介護支援ボランティアは中止中だが、時折り近くに立ち寄った際は、気軽に声掛けがあり良好な関係を保持している。ご家族で近隣地区の婦人会長をされている方より取り組みに対する相談など積極的に交わされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・家族や行政以外の近隣住民への発信できていない。職員の子供と一緒に事業所内でお手伝いをしてもらいながら、入居者様の状態をみて、触れて実感できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、参加人数の制限を行いながら、毎回メンバーを変えて、会議内で出た意見や発言内容を議事録に残し、次回会議内で参加者に配布している。また、スタッフミーティングで解決できない議題を運営推進会議で議題提案している。	運営推進会議は2か月に1回、コロナ禍にて、参加人数制限での開催や会議録・照会書を郵送し意見の収集を行っている。前年度までは口頭で意見の聴取を実施していたが、今年度は、より運営の質の向上に向け、項目分けて記載の工夫をするなど活発な意見や評価が出しやすいよう改善に取り組んでいる。定例ミーティングで解決できない課題を運営推進会議で共有し、積極的に質の確保を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議の開催や各種研修の案内、制度改正などによる、通達事項がある際は、直接事業所内メールとのやりとりで連絡、連携を行っている。	市職員は運営推進会議の構成員でもあり、運営や現場の実情など共有し、課題解決に向けて助言を得ている。また管理者は利用者の権利を守る為、気になる事柄や疑問など事業所で抱え込まずに、管轄の包括支援センターへ積極的に相談、助言を得るなど協働関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入居者様が「外に出たい」と要望した時は、玄関の暗証ロックを解除し、一緒に付き添って外に出ている。夜間の職員体制なども考慮すると、常時開放が難しい。	身体拘束等の適正化のための対策検討する委員会や研修を実施している。夜間帯、せん妄で転倒リスクが高い利用者に対して、やむを得ない状況の場合の協議を行い、本人・家族の同意のもと安全面を優先に対応したケースがあった。管理者、職員は定期的に、事業所の方針や介護保険指定基準の禁止となる具体的な行為を確認しながら日々の支援を振り返り、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・1年に2回、事業所内での勉強会を持ち、高齢者虐待の内容、普段のケア内容の振り返り、職員同士での意見交換を行うようにしている。	高齢者虐待防止対応マニュアルは整備されている。年2回、虐待防止の為の研修を計画し、今年度はこれから実施予定している。管理者は職員の言葉遣いや強い口調など不適切な場面が見られた場合、一旦、持ち場から外し、時間を設けて注意している。また他職員より報告があった際は、双方に配慮しながら、慎重に対処している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者様の金銭管理や経済的状況を把握し、対応に困った時は、管轄の包括支援センターへ相談に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・新規入居の契約、制度改正での介護報酬変更がある際は、その都度、制度内容の資料などを用いて、ご家族様一人一人に説明し同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・入居者様、ご家族様の要望や意見内容は、ケアプランやメールでのやりとり内容をプリントアウトして、職員同士と共有している。	利用者からの要望は、日々の生活の中で確認している。最近では、妹に会いたいとの想いに対し、管理者が移送対応し、他市までドライブスルー方式での面会を実施している。また家族へは運営推進会議議事録を郵送するなど情報を発信し、要望や意見が出やすいように工夫している。家族よりオンライン面会の希望あり、法人に電子媒体設置の手配を進めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・1～2か月に1回、職員内ミーティングを行い、職員同士で意見交換を行っている。ミーティング以外でも、毎日の申し送り時や日ごろの職員からの意見内容をカンファレンスに議題提案行っている。	定例ミーティングや申し送り、日々の業務の中で、職員が意見を言いやすい機会や雰囲気作りに努め、業務改善や運営に取り組んでいる。食器洗浄後の衛生管理の面で、職員より意見があり、食器乾燥機を購入している。管理者は、優先順位を考慮しながら、職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・1年に2回の人事考課制度の利用、賞与への反映、各個人ごとに自己評価、スキルアップ計画を作成している。	年2回、人事考課制度を行い、職員の能力や成果を評価し、適切な処遇対応に取り組んでいる。管理者は面談において、個々で設定した目標を職員と一緒に振り返り、向上心を持って働けるように助力している。健康診断は年1回、夜勤者は年2回実施が把握できる資料が整備されている。また休暇や各種手当、労働条件が規定された就業規則が整備されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所外研修案内など、職員それぞれが、閲覧できるように、ファイリングしている。また、職員に必要な研修内容への参加を提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣のグループホームの管理者と連絡、連携をとり、お互いでの運営推進会議の参加を行うようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前からの自宅訪問、入居初日、入居からの数週間は、毎日本人と関わるコミュニケーションを多くもつようにしている。本人との馴染みの関係していた友人や家族の名前を協力を得ながら、本人が安心できるように寄り添っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居相談の時から、相談受付段階の時から、時間を多く作り、記録に残し、入居後数週間までは、こまめに連絡をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前から利用していた医療保険デイや入居後の必要性がある場合は利用継続できるように各種関係機関と相談しながら調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・入居者様の得意分野に合わせて、本人ができることを行ってもらいながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍になり、ご家族様の来訪頻度も減っている為、職員とご家族様同士の交流が減っている。運営推進会議の開催で、交流を持つようになっている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・なじみの友人、家族、親戚と定期的に電話連絡や手紙のやり取りができるように、支援している。	入居時にジェノグラム以外の人間関係なども十分に把握できるように努めている。定期的に模合へ参加していた方もいた。現在、コロナ禍による制限に伴い、電話連絡や手紙のやり取りなど様々な工夫を図り、繋がりの継続支援をしている。また法人内の待合室へ散歩がてらに出向き、他事業所入居者と「ゆんたく会」がごく自然な形で交わされ、馴染みの関係となっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・趣味や波長の合う入居者様同士を近くの席へ案内したり、お互いの居室訪問で、茶菓子などの提供ができるような場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院やご逝去による退去になっても、グリーフケアとして関わりやその後のご家族様の健康面などの経過を話しできるように機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の言葉、ご家族様の言葉をそのまま、ケアプランや介護記録に残し、ケースカンファレンスなどで、共有している。	利用者全員、表出可能で、職員は対話の中で、ひとり一人の思いや意向について関心を払い、把握しようと努めている。コロナ禍で、家族に会いたい思いを汲み取り、感染防止対策を図り、家族の職場へドライブスルー方式の面会を実施するなど利用者の視点に立ち、想いに寄り添った支援の実施に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の自宅での本人の日課や関わっていた友人や親せき関係をご家族様、本人から聞き取りした内容を入居時の居室環境や日課にも反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・レクリエーションや事業所内の日課は、本人の行動や要望に合わせて、見守りなどで対応。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケースカンファレンスや職員ミーティング内で、意見内容をまとめ、決議している。参加できなかった職員や内容に応じて、全員からの意見書を提出していただいている。	居室担当者から気づきやアイデアなど意見書を回収し、利用者がよりよく暮らせるよう支援のあり方をケア会議や定例ミーティングにて話し合い、介護計画に反映させている。夜間不眠で、トイレ頻回の利用者に対し、モニタリングにて不眠とトイレの頻度をデータ化し、原因究明に努めた事例もあり、現状に即した個別の介護計画をチームで検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は、本人の言動や行動だけでなく、その後の職員のケア内容を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人の日課やできること、望むことを中心に、家族や友人などのとりまく環境やバググランドに合わせて、プランに反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・サ高住から入居された方など、併設しているサ高住やクリニック、保育園の職員や入居者様との関わりも継続できるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前から関わっていた、主治医を継続して受診している。ご家族様の要望に合わせ、併設しているクリニックへ変更する方もおられる。	殆どの利用者が協力医をかかりつけ医として受診を受けているが、入居前からの主治医を希望され継続して受診される方もいる。精神科などの他科受診についてはご家族の協力を求めている。24時間、2階のクリニックとの医療連携が取れており、緊急時においても看護師、医師と連絡が取れ、指示を仰ぐ体制作りがされている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・急変やいつもと違う、状態変化があった時は、施設内内線を使い、電話での相談、先生の往診などで対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院があった時は、治療計画や入院予定、本人に関する情報を早期に亭出し、病院担当スタッフと連絡、連携をとり退院時の受け入れ体制を整えている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時から、ご家族様、本人の望む終末期について説明し検討していただいている。希望を確認し、記録に残しておく。また、本人の状態が著しく変化した時は、主治医と家族を交え、事業所内でできる対応等を再度説明している。	入居時にご家族、本人の意向を尊重して十分な説明を行い終末期の希望を確認し、同意書を得ている。現在、看取りを希望されている方もいる。定期的に看取りに関する研修を行い、緊急時の対応を含め、職員の対応を確認している。12月に那覇市医師会の協力のもと、看取り、アドバンスケアプランニングについての勉強会を法人全体で開催している。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日中、夜間に分け、入居者様の急変時の対応手順、連絡方法をマニュアルに備えている。また、1年に1回のAED訓練、緊急対応の勉強会開催している。	利用者の急変、事故などに備えて緊急搬送シートを作成しており ①2階のクリニックが開いている時 ②2階のクリニックが閉まっている時などの状況に対応する為、フローチャートで職員の注意を促している。定期的に緊急時対応(心肺蘇生・AED)についての勉強会を開催している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	・火災避難訓練は年に2回行い、避難方法、連絡方法の確認をマニュアル化している。感染症については、制度改正がある都度、情報共有、勉強会を行っている。	避難訓練をフローチャートに整備し、令和3年11月、令和4年6月グループホーム内の夜間想定避難訓練を行い、令和4年9月26日ユートピア沖縄全体の総合訓練を行っているが、消防署においての実施記録が確認できなかった。感染対策の手引きが整備され、夏にクラスターを経験した事で他部署との連携がとれ、感染症対策の備品やガウンなども十分な備蓄がなされている。	年に2回、グループホーム内での夜間想定避難訓練が行われているが、シュミレーションに留まっており、消防訓練実施計画書の提出や届け出を行い、災害を想定した実践的な訓練を実施できるよう期待する。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ケアを望む入居者様と自立心に合わせ、一律としたケアではなく、声掛けするタイミング、内容を変えている。	利用者の意思を優先して、自立心を損なわないケアを心掛けている。起床時間の声掛けは画一化せず体調に配慮し、居室トイレへの導線を自立できるように家具の配置換えを行うなど工夫している。職員の入職時に個人情報に関する誓約書を取付、事業所入口には個人情報保護方針、運営規程、運営推進会議の議事録などファイルされ見やすい状況に整えられている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・食事や入浴などのタイミングは、本人の気分やその日の体調に合わせて、時間や日をずらして対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・業務や職員の動きの優先にならないように、日中のレク活動内容や家事支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人が身に着ける、アクセサリーや時計、ヘアアクセサリなどは、本人の居室内に保管しいつでも本人が触れるようにしている。買い物へ行った時は、本人がほしいものが購入できるように、事前にご家族様からお金を預かり、了承を得ている。			
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・主食をパンやごはんを選べるようにしている。好きな飲み物を常備し、水分摂取につなげている。また、行事レクでは、季節に合わせた料理と一緒にしている。	食事は、三食法人からの配食を利用しているが、おやつレクで食の楽しみを増やし、料理上手な利用者が揚げ物をされたり、ケーキ作りなど職員の見守り支援の中、包丁を使い感覚を思い出しながら無理のない範囲で参加している。食堂のテーブルには、飛沫防止のシートが感染対策のため取り付けられている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量が少ない方は、ご家族様からの差 し入れで本人が好むものを提供。主治医への相 談も行いながら、栄養補助食品などで補給を 行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	・歯科衛生士からの直接指導、相談をしながら、 義歯の取り扱いや必要性を学ぶ機会を設けてい る。 毎食後、歯磨きの案内 や口腔ケアを行い、衛生状態を保っている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	・トイレの場所がわかりやすいように表記し、排 せつの周期や時間、タイミングは一人一人合わ せて対応している。	其々の居室にトイレが設置されている為、コロナ 禍での感染対策の際は職員の負担を軽減する 事ができた。通常は、自立されている利用者は 見守り支援を行い、車イス利用者も介助されな がら出来るだけトイレでの排泄を支援している。 トイレドア開閉時の転倒事故を防ぐため、ドアに 簡易的なストッパーを取り付け、危険防止に役立 てている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	・便秘症の方は、内服薬を服用する前に、飲み なれた飲料をご家族様に持参して頂き、摂取さ れている。食事内容、水分量を把握し、主治医と 連携しながら内服薬の服用もしている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々にそっ た支援をしている	・本人の体調や気分、皮膚状態に合わせて、入 浴の回数や時間帯を決めて対応している。	週3回のシャワー浴を基本としているが、本人の 意思を尊重して時間帯など柔軟に対応してい る。脱衣所内も転倒防止に配慮して手すりを設 けたり、冬場の温度差を少なくするため、暖房器 具を準備し、脱衣所での整容は行わず、其々の 個室でゆったりと過ごせるように工夫している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中は、午睡の時間は一人一人に合わせて、午前中や午後、夕方などに行っている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・定期薬以外で、臨時薬、追加薬がある際は、申し送りや服薬ファイルに掲示。服用後の経過記録を残し、主治医への報告、相談につなげている。	服薬については、セットミスなどヒヤリハット報告が多くなされているため、薬のセット作業を日常業務の中で見直しを行い、一連の作業を業務の落ち着いた時間に行えるよう工夫している。検討会議を重ね、落葉についても都度、対策を考えるなど事故報告までは至らない状況の為、今後のチェック体制に期待する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日中のレクリエーション活動は、外が好きな方は、ドライブへの案内、室内を好む方は、手芸など室内でできる内容を提案、案内している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族様と自宅外出を行ったり、買い物を望む場合は、本人と一緒に同行し、商品を本人に選んでもらっている。	コロナ禍であっても感染対策を取りながら、大型複合施設に人出の少ないオープン時間を狙って買い物に同行するなど、工夫を凝らした外出支援を行っている。利用者の好みの物を選ぶよう配慮がなされ、きめの細かい支援を心掛けている。面会制限時においてのiPadなどを利用したオンライン面会は今後の課題となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人専用のカバン、財布をもって頂き、施設内にある自動販売機の利用や買い物先で、本人の財布から支払いを行うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・事業所内の電話や、本人が持っている携帯電話を利用して、定期的に、本人との長年の友人や家族様へ電話できるように支援している。また、年賀状や暑中見舞いなど、季節に応じてハガキを出している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間の食堂やリビングは、季節のものを飾り、壁面作成も一緒に行っている。また、リビングテレビや活動中のラジオ、音楽の音量も注意し、一人一人過ごしやすい環境作りを行っている。	3面採光の明るく風通しの良い食堂とリビングは、常時窓を開放し換気対策が取られている。感染対策に配慮し、一日2回、清掃担当者が手すりやドアなどのふき取りを行っている。3ヶ月毎に担当の職員が、季節に合った壁面の飾り付けを利用者と一緒にを行い、利用者の個性を活かした塗り絵なども飾られ、日々の生活に彩りを添えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合う入居者様同士、関われるように、席の配置やお互いの居室内で過ごせるように、制限をしないように見守り行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内は、自宅で使っていたもの、飾っていたもの、小物を持ち込んで頂き、使い慣れた、見慣れた環境にするようにしている。	洗面化粧台、トイレ、靴箱以外にも生活用品がほとんど揃っていて、自宅で使い慣れた扇風機や小物を持ち込み、居室で一人の時間を楽しむ環境が整っている。洗面化粧台は、ドライヤーの使用が可能な為、入浴後の整容や洗面スキンケア、歯磨きなどをゆっくり行う事ができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・本人の居室内に掃除道具やぞうきんなどを置き、本人がいつでも使用できるようにしている。また、ベランダにも出て、外の景色が見られるようにしている。		

目標達成計画

作成日: 令和 4年 10月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の消防署への届け出が提出できていない。事業所のみならず、施設全体での連携と訓練が必要。	施設全体で避難訓練が行える。	・グループホームだけでなく、他部署も合同で施設全体で行う避難訓練を実施する。	12ヶ月
2	13	オンラインを含めた外部研修への参加がコロナ禍になり、積極的に行えていない。	職員が、自発的に研修に参加しやすいように、オンライン体制を作り、インセンティブ制度を活用する。	・認知症実践者研修、基礎研修の受講を全職員行えるように、申込を行う。 ・研修参加が行いやすいように、シフト上の人員配置や休暇を入れて対応する。	12ヶ月
3	26	モニタリング担当の割り当てがあるが、実際ケアプランに沿ったモニタリング記録や実施が担当者を中心に行えていない。	担当職員を中心にモニタリング作成ができる。	・ケアプラン作成後のモニタリング記録を担当者が定期的に作成できるように、業務スケジュールを1ヶ月単位で作成、実施する。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。